研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-110		17-063	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Impact of Alcohol Intake and Drinking Patterns on Mortality From All Causes and Major Causes of Death in a Japanese Population.

日本人において飲酒習慣が総死亡や主な死因におよぼす影響

執筆者

Saito E, Inoue M, Sawada N, Charvat H, Shimazu T, Yamaji T, et al.

掲載誌

J Epidemiol. 2018 Mar 5;28(3):140-148. doi: 10.2188/jea.JE20160200.

キーワード	PMID
飲酒　日本人　総死亡　循環器死亡　がん	29129895

要　旨

目的：

日本人において飲酒習慣が総死亡やがん死亡、心疾患死亡、脳血管死亡、呼吸器疾患死亡、外因死におよぼす影響を明らかにする。

方法：日本人 40-69 歳の 102,849 人を対象にしたコホート研究において、飲酒習慣が総死亡やがん死亡、心疾患死亡、脳血管死亡、呼吸器疾患死亡、外因死におよぼす影響を、コックス比例ハザードモデルにて検討した。

結果：

平均 18.2 年追跡期間中、15,203 件の死亡を確認した。男女ともに飲酒習慣はがん死亡リスクとの関連を示した。また、飲酒者において飲酒量は男女ともに全死亡、がん死亡、脳血管死亡リスクと正の関連を認めたが、男性の心疾患死亡とは関連を認めなかった。男性で休肝日を設ける者は、がん死亡や脳血管死亡リスクの減少を認めた（男性のハザード比（95%信頼区間），非飲酒者；1(reference), 機会飲酒者；0.76 (0.71-0.81), <150g/week; 0.76 (0.71-0.81), <300g/week; 0.75 (0.70-0.80, <450 g/week; 0.84 (0.78-0.91), <600g/week; 0.92 (0.83-1.01, >=600g/week; 1.19 (1.07-1.32)。

結論：

飲酒量は全死亡、がん死亡、脳血管死亡リスクと J 字型の関連を示した。多量飲酒は死亡リスクが高く、休肝日を設けるなどして、飲酒量を減らす必要がある。